

理工・デジタル系の方向け！！

国税専門官採用試験(B区分)

国税庁では、税務行政のデジタル・トランスフォーメーションに取り組んでおり、ICT分野での活躍が期待される理工・デジタル系の人材を求めています。

国税専門B区分(理工・デジタル系)は、基礎数学、情報数学、情報工学、物理、化学等といった理工・デジタル系の分野の問題が多く設定されており、幅広く、理工・デジタル系の方が受験しやすい試験となっています。

○国税専門官とは…

国税庁は、国の財政基盤を支える内国税の賦課・徴収を行う官庁です。国税専門官は、全国の国税局や税務署で税のスペシャリストとして、次のような業務を行います。

国税調査官

納税者から提出された確定申告書等について、適正な申告が行われたかどうかの調査や検査を行うとともに、申告に関する指導などを行います。

国税徴収官

定められた納期限までに納付されない税金の督促や滞納処分を行って、税金を徴収するとともに、納税に関する指導などを行います。

国税査察官

裁判官から許可状を得て、悪質な脱税者に対して捜索や差押えなどの強制調査を行い、刑事罰を求めるため検察官に告発します。

1 国税庁の組織と業務

○国税庁のネットワーク

国税庁は、昭和24年に大蔵省（現、財務省）の外局として設置されました。
国税庁の下には、全国に12の国税局（所）、524の税務署が設置されています。

〈各国税局（所）の管轄地域〉



● 国税庁（約1,000人）

税務行政を執行するための企画・立案や税法解釈の統一などを行い、全国の国税局・沖縄国税事務所・税務署を指導・監督します。

● 国税局・沖縄国税事務所（約16,000人）

国税庁の地方支分部局であり、管内の税務署を指導・監督するほか、大規模・広域・困難事案の税務調査や滞納処分などを行います。

● 税務署（約38,000人）

国税庁や国税局の指導・監督の下、国税の賦課・徴収を行う執行機関であり、納税者の窓口として第一線で国税事務を担います。

○国税庁におけるデジタル・ICTスキルの活用部署のご紹介

国税庁においてデジタル・ICTスキルを活用して業務を行っている部署を、一部ご紹介します。国税庁では、税務行政のデジタル・トランスフォーメーションの推進に取り組んでおり、多くの部署で積極的にデジタル・ICTスキルを活用した業務を行っています。

● 国税庁

- ・ 参事官
- ・ 企画課、情報技術室
- ・ 各主務課（データ活用担当）

● 国税局

- ・ 企画課、情報システム課
- ・ 各主務課（データ活用担当）
- ・ 統括国税実査官（電子商取引担当）
- ・ 調査開発課、査察開発課

● 税務署

- ・ 情報技術専門官
- ・ 特別国税調査官（開発調査担当など）

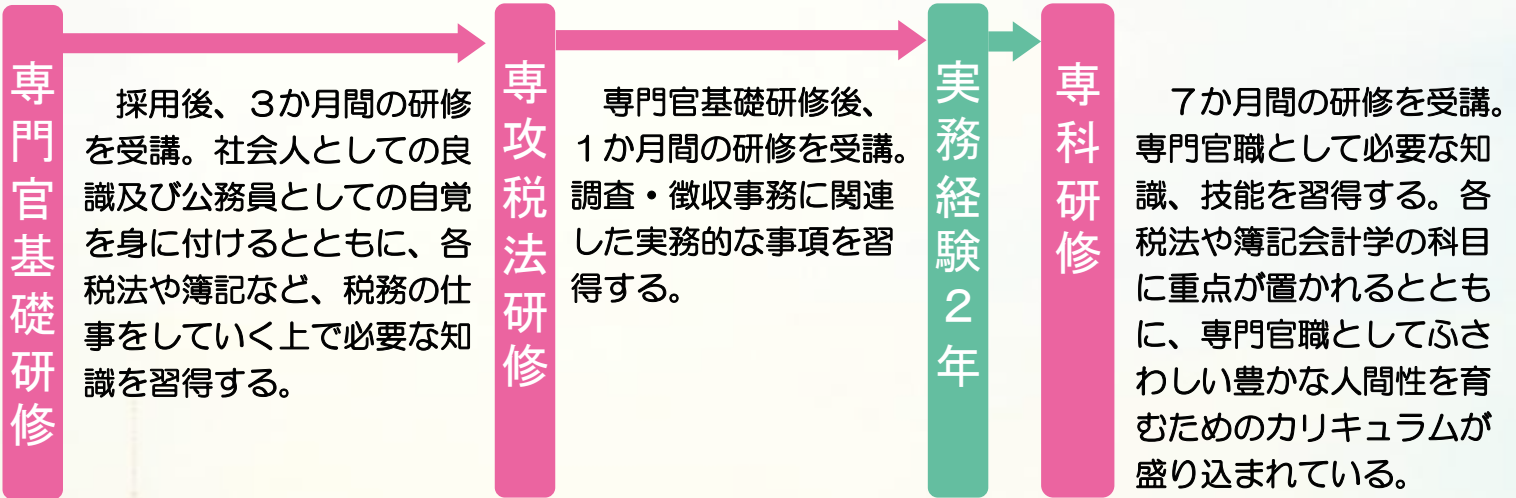


これ以外にも多くの部署で理工系出身の職員が活躍しているよ。

実際に国税局や税務署で働く理工系大学出身の先輩職員のメッセージ(P4)も必見！

2 研修制度

国税庁では、採用後の充実した研修制度により、理工・デジタル系の方でも、税務の仕事をしていく上で必要な知識を習得することができます。



※ ほかにも、試験や選考により、国際科、専攻科、データ活用研修、研究科（税務又はデータ分析に関する高度な専門的理論の研究）などの、より専門性が高い研修を受けることができます。また、国際課税、審理、語学などの通信学習による研修制度も用意されています。

3 人事・福利厚生

○給与

初任給は大学卒で269,640円（令和6年度、東京都特別区勤務の場合）です。これに加えて、扶養手当、通勤手当、住居手当などが支給されます。

また、6月、12月には期末・勤勉手当（民間企業の賞与に当たるもの）として、年間に俸給月額等の約4.50月分が支給されています。

区分	俸給月額	差額 (月額ベース)	年間収入	差額 (年収ベース)
国税専門官	税務1-22 224,700円 (269,640円)	28,500円 (34,200円)	税務1-22 3,357,000円 (4,028,000円)	425,000円 (509,000円)
一般職	行(一)1-25 196,200円 (235,440円)		行(一)1-25 2,932,000円 (3,519,000円)	

(注) ()内の金額は、東京都特別区勤務の場合を示す。

○勤務時間・休暇

勤務時間は、1日7時間45分、週休2日制で祝日及び年末年始は休みです。

休暇には、年20日の年次休暇（残日数は20日を限度として繰越可）のほか、病気休暇、特別休暇（夏季、結婚、出産、子の看護、ボランティア、忌引など）、介護休暇があります。

また、育児休業をはじめ、仕事と育児の両立を支援する様々な制度が設けられています。

4 先輩職員のメッセージ

木村 文哉 仙台国税局 2010（平成22）年採用
（理工学類 出身） 仙台国税局 総務部 情報システム課



Q. 現在の仕事と学生時代の専攻は？

A. 私は現在、仙台国税局情報システム課で国税局のサーバやネットワーク等の運用や調査担当部署における調査・資料データ分析のサポートを行っています。

大学時代はプログラミング（アルゴリズムの生成）を専攻していたので、論理的思考を培うことができたほか、パソコンでのデータの取扱いには慣れていましたので、現在の所属部署でも大学時代の経験や知識を十分に生かしながら様々な業務ができています。

Q. 採用される前と後でのギャップはありましたか？

A. 公務員＝堅苦しいというイメージでしたが、実際の職場は和気あいあいとした雰囲気、休憩中には会話も弾みます。また、分からないことや困難な問題に直面したときも上司や先輩たちとチームとして対処していける、とても風通しの良い職場だと思います。

Q. 皆さんへメッセージをお願いします。

A. ICTの発展により、国税の職場でも膨大な量のデータを取り扱う機会が増えている中で、理工学系の知識・技術に長けた多くの職員が活躍しています。皆さんの知識や技術を使い、一緒に税のスペシャリストとして活躍してみませんか！

早川 悟 札幌国税局 2008（平成20）年採用
（理学部 出身） 札幌西税務署 特別国税調査官（開発担当）付

Q. 学生時代に学んだことが、どのような部署で活かされましたか？

A. 私は、大学時代に理学部数学科に在籍しており、ゼミ等を通じて、難解な問題を解答に導く過程を明確かつ簡単に伝えるための論理的思考と説明能力を培いました。札幌国税局採用後は、国税局の情報・システムを取り扱う情報システム課や、マルサと言われる査察部門などで勤務しましたが、どの部署で仕事をする時も、大学時代に学んだことは、難解な税法や会計上の問題点を納税者に分かりやすく伝える上で、非常に生かしています。

Q. 国税の職場の魅力を教えてください。

A. 国税の職場は、国家の財政基盤を支える重要な仕事であり、やりがいを感じることができますし、ワーク・ライフ・バランスに配慮した働きやすい職場です。男女ともに仕事と家庭の調和を図れることが、大きな魅力です。

Q. 皆さんへメッセージをお願いします。

A. これから入ってくる皆さんの理系的な目線やデジタル・情報処理の力と、先輩職員の持つ税務の知識・経験との相乗効果を期待しています。皆さんがこれまでに培ったバックグラウンドを生かす場面が多くある職場ですので、是非国税の職場を目指してください！

